

第三章
古
代

はじめに

原始時代に関しては、生活の主用具たる石器や土器、住居址などにより当時の人間生活の一端を知り、その末期（弥生時代）には農耕生活殊に稲作の開始をみて、現代農耕の始原を知ることができる。この時代に続く古代、即ち古墳時代に入る訳であるが、今、机上に置賜全域の歴史に関する文献を並べて開いてみると、古代史の内容はほとんど同一に等しく特色がない。独り『高島町史』〔昭和四十七年発行〕のみが豊富な資料を十分生かし、紙数をたっぷりとっているのが光っている。

これから書こうとしている白鷹町史の「古代の章」は、他の市町村史で見飽きた内容であり、全く資料は貧弱である。しかし、高島地方の古代文化の繁栄は、同じ置賜盆地の我が町についても、ある程度の文化があったことを想像させる。これとはっきりわかる遺物がない以上推定の域を出ないことになるが……